

# 見通しを持って、意欲的に取り組む子

白 田 季 微 子

## はじめに

場面かん黙の傾向を持つT子は、いろいろな能力を持ち得意なことがたくさんありながら、周囲から見ると、自信のない行動力のない子という印象を与がちである。話さないのではなく、話せないというT子。思春期特有の恥ずかしさ、自己顕示欲の強さの反動がかん黙傾向となっていると考えられる。A子やK子と同様に自分も面倒を見て欲しいという幼さも、まだみられる。このような本児の内に持つ力、(6~7歳)が、集団の中で生かされるようにしたいという思いが強い。自信のないうつ向く姿から、自信を持ち前を見つめる姿へ変容させたいと願い実践したことを述べたい。

## 1. 対象児のプロフィール

### (1) 生育歴

- ・昭和51年3月26日生、14歳 ・一人っ子(母子家庭) ・首のすわり4か月、歩行2歳2か月
- ・昭和63年10月、米子医大で検査の結果、癩性副甲状腺機能低下症、低カルシウム血症と診断。障害の特徴は顔が丸く、小太りで背が低い、知能も低い、V<sub>D</sub>の服薬、成長ホルモン剤の注射。
- ・場面かん黙。小5の頃からささやき声。本校中学部入学後は、校内で全く話していない。

### (2) 諸検査等による実態

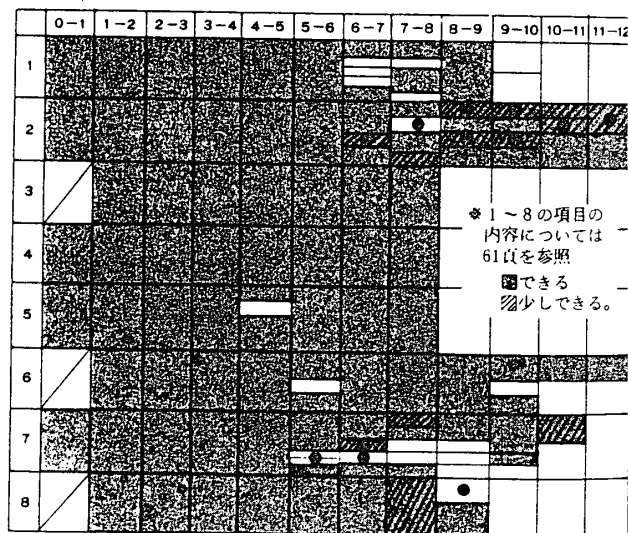
- ・津守式乳幼児精神発達検査 (H2. 5)

運動	探索	社会	生活習慣	言語
6:5	6:5	7:0	7:0	6:5

だいたい6歳8か月くらいの発達を示している。かん黙のため、日記等の文章表現から推測するよりも言語面が低く表れている。

- ・からだの輪郭表

手指の機能と運動面が劣っている。障害の特徴(肥満、手指が太く短い)のためと思われる。道具の操作は不十分だが積極的である。だいたい7~8歳くらいの発達を示す。



〔図1〕 からだの輪郭表

(H2. 5)  
(●印は10月できるようになったところ)

### (3) 行動特性

- ・家庭内ではよく話すが、お母さん以外の人とは話をしない。しかし、思考力はかなりあり、文章表現をしたり、動作で意思表示をしたりして、自分の気持ちを伝えることができる。
- ・認められたいという気持ちが強いが、人前になると強度の緊張感から顔が赤くなる。

- ・尋ねられても首をひねる、うつ向くといった様子で、はっきりした反応を示さない。
- ・身辺処理は確立しており、自分のことは自分でできる。また、友達の世話もよくする。
- ・周りのことが気になってよそ見が多く、作業的な学習になると集中力・持続力に欠ける。
- ・競争意識が強く、思い込んだら誰が何と言おうと最後までしてしまう意思の強さを持つ。
- ・音楽が好きで歌をよく知っており、簡単なメロディーの曲ならオルガン等でひける。

## 2. 取り組みの構想

### (1) 指導仮説

諸検査による実態からみると、本児は大体、6歳～7歳程度の発達段階にあり、見通しと段どりが大切な時期である。同じことの繰り返しの中で、また、全体の中の自分の役割を自覚する中で、見通しと段どりを持って物事にあたれるようになる。見通しと段どりは自信へとつながる。自信を持って力いっぱいからだを動かしてやり遂げた成就感は、本児の内の力となって定着し、さらに次への意欲を生み出すと考える。以上のような考えから、次のような5つの指導の方針をたてて実践することにした。

### (2) 指導方針とつけたい力

- ① 目あてを明確にし、目的意識を持って取り組ませる → 見通しと段どり、最後まで頑張る力
- ② 段階をおって新しいことに挑戦させ、技能の獲得をはかる → 生活経験を広げる、生きる力
- ③ 得意なことを生かして、自信を持って行動させる → 決まったことは進んで取り組む力
- ④ 場面かん黙については、無理に話をさせようとしない → 自分なりに気持ちを他に伝える力
- ⑤ 頑張りを具体的に認め、自己評価を大切にする、青年らしい評価の仕方 → 内面の充実

## 3. 指導の実際

### (1) 生活単元学習

今までの経験を生かして学習計画をしっかりと立て、単元全体の見通しを持たせると同時に1時間ごとの学習でも、目あてややり方を明確に示し進んで取り組めるようにした。また、評価もできるだけ具体的に、(例:～は良いが～がもう少し。～が～個できた、あと～個。～個できた、すごい。)行った。作業的なこと、特に作ることに重点をおき、からだを使った学習を多く設けた。

#### ① 「野外炊飯」での取り組み

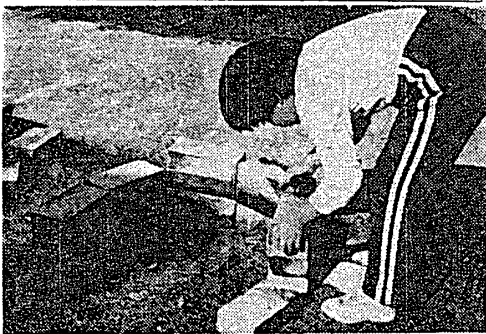
題材名	手立て、要因	「楽しんで、力いっぱい……」の姿
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレー作り</li> <li>・衝立作り</li> <li>・台ふきん作り</li> <li>・ミニ炊飯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい技能へ挑戦</li> <li>・補助→示範→一人</li> <li>・グループで競争</li> <li>・作業量の見通し</li> <li>・新しい技能の習得</li> <li>・見通し、励まし</li> <li>・指示、賞賛</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて彫刻刀を使用。自信のない顔で首をひねりながら彫っていたが次第に要領が良くなり喜んでしだした。①の手を引き、見てと催促。</li> <li>・きりでたくさん竹に穴をあけた(手にまめができる)。先生に習い竹を一本ずつ同じ間隔で並べていった。競争を意識してどんどん打った。</li> <li>・縫い始めは少し補助してもらった。後は勢いよくミシンで縫えた。返し縫いもした。長針に糸がなかなか通せなかったが何度も挑戦し通した。</li> <li>・かまどを自分で工夫して作り、ほめられてとても喜んだ。</li> </ul>

話をよく聞き、挙手して発表（声を出さないで口を開いて発言、黒板に書く）する様子が見られた。のこぎりや金づち、きりなどの道具を使った学習にずい分興味を持ち、意欲的に参加していた。野外炊飯当日は、薪の束を両脇にかかえて運ぶ姿、片付けを頑張る姿が見られた。

## ② 「初任研の先生方を迎えて、カレーうどん作りをしよう」での取り組み

＜題材名＞ お客様を迎えるための会場づくりをしよう（学部研究授業）

一人だけマニュアルを渡し、教師の指示をいちいち受けなくて、一人で見通しを持って準備をすることに、初めて挑戦。



自分だけが特別にマニュアルをもらい、うれしそうだった。しかし、与えられた課題（4つ）が多かったため、見通しを持って段どり良く取り組むところまでいかず、2つ目をしているうちに、途中で時間切れになってしまった。煉瓦はたいへんていねいに積めた。

初めての試みである為、T子自身が不慣れであったこと、また、最初の課題（煉瓦30個でかまどを2つ作る）に予想外に時間をくってしまった教師サイドの見通しの甘さがあった。課題を2つくらいにしぼり、達成後の報告の仕方も含めて今後も取り入れていきたい方法である。

## ③ 「臨海学校」での取り組み

＜題材名＞ 薪作り（全体研究授業）

学習の流れ	手立て・要因	本児の様子・活動	
<ul style="list-style-type: none"> <li>集合して話を聞く</li> <li>薪作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の見通し</li> <li>意欲</li> <li>指示、声かけ</li> <li>合った課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「用意、始め」で、他の男子と同じくさっと鋸を取りに行く。元気よくエイエイオーのポーズ。</li> <li>木を取りに走って行く。自分で場の設定をするが適切でないため、思うように切れない。①に手ごろな木を選んでもらい、どんどん切り出す。</li> <li>全部切れたと、手をたたき格好をする。</li> <li>自分に切れそうな木を選んで切り始める。木がなくなると薪を井型枠の中に運ぶ。友達の分も。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>集合</li> <li>緑組の手伝いをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成就感</li> <li>活動の見通し</li> <li>声かけ</li> </ul>		

視線をまっすぐ向け、前に立つ教師の話をしっかり聞いていた。いつ何があってもさっと行動に移せる姿勢で、学習にのぞんでいる姿が印象的であった。

## ④ 「運動会」での取り組み

今までの生活単元学習での取り組みが、からだを動かすことの多いこの

単元でどう表れてくるか評価的な単元としてとらえることにした。

- 100メートル走でぱっととび出し、口をしっかり結んでゴールまで走り抜いた。
- 「みんな働きの者」で、素早く一輪車に両手をかけて走り、薪の束も小走りで積み込んだ。一位になろうとする意欲が充分みられた。
- 「赤組のリレー選手に選ばれたR男より速く頑張る走るの、自分を選手にして欲しい」と日記に書いていた。競争の結果、R男ではなくU子を抜いたため、当日はリレー選手として出場でき、頑張る姿を走った。

4. T子の変容——「がんばる力がついてきた。」

い	に	て	う	さ	し	い		
し	そ	け	い	に	て	わ	白	
ま	出	早	ん	。	し	た	田	
す	し	と	め	わ	て	。	し	先
。	て	な	い	た	あ	。	は	生
が	そ	う	は	し	た	。	へ	
ん	さ	た	し	た	し	と	リ	
ば	い	ん	。	。	。	。	。	
る	。	。	。	。	。	。	。	
か	あ	ず	は	い	し	と	た	
ら	ね	が	し	っ	て	い	出	
初	め	ら	。	。	。	。	。	

(1) 水泳での変容の姿

シーズン当初は顔に少しでも水がかかるとをいやがった→臨海学校で海水に顔をつけバタ足ができた→夏休みにビート板につかまり時々顔をつけて8m泳いだ→思い切ってとび込みをした→プールおさめで、ビート板につかまり時々顔をつけながら20m泳いだ。

水に対する恐怖心の強かった本児だが、お風呂で毎日一生懸命練習したという意欲と、「鼻をつまんで顔をつけよう」「今は鼻の下までだったから次は目まで、額まで」といった小刻みの励ましが功を奏したのか、何度も顔つけができた。しかし、いちばん大きな要因は、要求に応じようとする本児のがんばる力がついてきたことだと思われる。

(2) 「さざなみ作業所」の実習での変容の姿

長い夏休み、母親の留守中部屋の中で一人ですごすより、外へでて皆の中ですごさせたいと考え、できるだけたくさん「さざなみ作業所」へ一人でバスに乗って通わせることにした。

- (ア) 学校前で①がバスに乗せる → 他の①がバス停でうけとる (朝)
  - ・①がバスと一緒に乗り、降り方を見守る (帰り)
- (イ) 母親にバスに乗せてもらう → ①がかくれてバス停で見守る
  - ・バスに乗せる → 後方を車で追いかけてバスから降りるのを確認
- (ウ) バス停からはなれた位置で、バスからおりるのを確認
  - ・バスに乗るのを離れた位置で見守る → おりるのも遠目で確認
- (エ) 一人でバスに乗っており、作業所へ行く
  - ・一人でバスを止めて乗り、一人でおりて家へ帰る



4段階の手立てを経て、一人通所ができた。夏休み中は弁当を持ち一人で10日間作業所へ通った。手早さはないがこつこつと作業し、結局中学部では一番多い3800円分の仕事をした。

— 母親の感想 —

一人でバスに乗れたし、作業所へ行く日をとても楽しみにしていました。仕事も今年はとても意欲的ががんばったと思っています。家では今日はシールを何枚はってくるからと張り切って行きます。夏休みの途中から毎日でもいいようなことを言っていました。いつもは長く感じる夏休みも今年はとても短く感じました。

5. 考察と今後の課題

生活単元学習を中心とした取り組みを通して、自分の持つ力をどんどん外へあらわそうとする姿、ふんばろうとする姿を見せてくれつつある。がんばる力がついたことは、102頁のからだの輪郭表やMSTB (右図)の積木うつし、往復走等の変容にも表れている。T子が話すことにこだわらないが、話してみようというふんぎりができるとうれしい。学級では伸び伸び行動で

【 図 2 】 MSTB 評価プロフィール

下位検査名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
ビーズの糸通し	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
こぶし→拳	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
積木うつし	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
お手玉投げ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
前屈リーチ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
立ち幅跳び	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
往復走	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
体の位置変換	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
起き上がり	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
歩行板	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
片足バランス (開眼)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
片足バランス (閉眼)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
椅子の腕立て伏	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

きて、まだ学部集団ではしりごみしてしまうことが多い。もっともっと成功体験を持たせ自信を強めることによって、大集団の中でも校外生活の中でも生き生きと活動できるようにしていきたい。